

## 地域における訪問リハビリに関するニーズの推計と対策

石森卓矢<sup>1)</sup> 福益由実<sup>1)</sup> 風晴俊之<sup>2)</sup> 内田智久<sup>3)</sup> 美原盤<sup>4)</sup>

1) 脳血管研究所美原記念病院訪問看護ステーショングラーチア リハビリテーション部門

2) 同 リハビリテーション科

3) 同 医療情報室

4) 同 院長

[目的] 当事業所が位置する伊勢崎市の訪問リハビリに関する将来ニーズを推計し、対応策を検討した。

[方法] 伊勢崎市の人口推計、居宅サービス利用人数、当法人居宅支援事業所の訪問リハビリ利用割合のデータを用いて、2040年までの伊勢崎市における訪問リハビリニーズを推計した。また、当事業所のスタッフ数、利用者数の推移を調査した。

[結果] 2040年まで訪問リハビリニーズは増加すると予想された。これまで当事業所は訪問リハビリニーズに応えるため、スタッフ数を増加させてきたが、2016年の利用者数は減少していた。このことは、本来訪問リハビリが必要な利用者が十分にフォローされていない可能性があり、将来的に必要な数と実数の差が広がっていくことが危惧される。伊勢崎市の訪問リハビリのニーズに適切に応えるには、マンパワー増加に加え、居宅支援事業所に対する訪問リハビリの必要性に関する理解促進が急務であると考えられる。